



発行 / 認定NPO法人 ランナーズサポート北海道

始まりのこと、これからのこと

スポーツボランティアを宇佐美彰朗さんに聞く

スポーツボランティアのこれからの期待をかける宇佐美彰朗さん



新型コロナウイルス感染症の影響で、あらゆるスポーツイベントが中止、延期の事態となっています。スポーツボランティアをやろうにも活動場所はない。そんな時だからスポーツボランティアのことをいろいろ考えてみよう、日本スポーツボランティア・アソシエーション (NSVA) 理事長の宇佐美彰朗さんにお話を伺いました。宇佐美さんは2000年にNSVAを任意団体として設立、2003年にNPO法人化しました。日本ではスポーツボランティアという言葉がまだ一般化していません。黎明期からこれまでの歩みを振り返り、これからの目指す方向性を語っていただきました。

●大都市の市民マラソンを実現したい

——どうしてスポーツボランティアの名前を付けた団体を設立されたのですか。

現役を引退したあと、東海大陸上部をみているかたわらで、東京のJR新大久保駅に近いスポーツ施設の教室で市民ランナーを指導する機会を持ちました。その教室メンバーの皆さんや心あるランナーとく欧米の大都市では、何万人ものランナーが市街地を走れるマラソンができるのだろうか？日本、とくに東京でもそうした大規模な市民マラソン大会開催ができないだろうか？？>そんな夢を

宇佐美 彰朗(うさみ・あきお)さん 1943年新潟県生まれ。中学はバスケットボール、高校は軟式テニス選手で、日本大学入学後から本格的に陸上競技を開始。箱根駅伝などで活躍しメキシコ、ミュンヘン、モントリオールのオリンピックに3大会連続で出場した。日本人で五輪マラソン3大会連続出場は、五輪草創期の金栗四三さん、君原健二さんと宇佐美さんの3人だけ。マラソンベストタイムは1970年の福岡国際マラソンの2時間10分37秒8(当時の日本最高記録、足掛け8年間維持、世界記録3位)。現役引退後には研究者、指導者として東海大学教授、同大学陸上部監督などを歴任。マラソン・長距離に関する著書を多数執筆。現在は東海大学名誉教授。NSVA理事長のほか宇佐美マラソン・スポーツ研究所を主宰し、全国各地でマラソン指導、講演活動をしている。

目次

- 9月6日はスポーツボラ記念日 ③
- スマイル・サポーターズ担当に石井さん ④
- きれいな舗装に一五輪マラソンコース ④